

## 様式第 4 号

課題名	ICU 患者に発生する AKI に対する病前 RAS 阻害薬服用と血圧コントロール状況の関連
承認番号	2019-64 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 集中治療部 氏名 永田 功
研究期間	(西暦) 2020 年 3 月 ~ (西暦) 2025 年 3 月
研究の意義・目的	<p>急性腎傷害 (Acute Kidney Injury: AKI) は、ICU 患者の 30~60%に発症すると報告されています。AKI 発症のリスク因子として、年齢、男性、高血圧、糖尿病、心不全、慢性腎臓病の既往症、敗血症などが挙げられており、高血圧は AKI 発症のリスク因子の 1 つです。</p> <p>高血圧の治療として生活習慣の改善や降圧剤の服用があり、降圧剤にはいろいろな種類があります。それらの降圧剤の中でレニンアンギオテンシン系阻害薬(RAS 阻害薬)は、AKI 発症のリスクファクターであるかははっきりしません。また、高血圧は AKI 発症のリスクファクターですが、降圧剤で血圧コントロールが良好な場合も AKI 発症のリスクファクターであるかははっきりしません。</p> <p>そこで、本研究では ICU 患者に発生する AKI に対する病前 RAS 阻害薬服用と血圧コントロール状況の関連を明らかにすることを目的としました。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	既に収集された多施設前向きコホート研究 (Japan AKI Database: JAKID) のデータベースを使用し、データ解析を行い、論文化します。本研究では、データベースに登録された患者から再入室と病前血圧が不明の患者を除外します。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	<p>利用目的: ICU 患者に発生する AKI に対する病前 RAS 阻害薬服用と血圧コントロール状況の関連を明らかにするために使用します。</p> <p>利用方法: データベースを使用し、データ解析を行います。</p>
利用又は提供する 試料・情報の項目	年齢、性別、BMI、病前血圧、降圧剤の種類、糖尿病薬の有無、利尿剤の有無、入室経路カテゴリ、最も侵襲を受けている臓器、入室前 48 時間に曝露された AKI リスク因子、心臓血管外科手術後か否か、敗血症か否か、入室時 SOFA、循環作動薬投与の有無、APACHEII スコア、CKD の既往等
試料・情報を 利用する者の範囲	実施責任者 (永田 功)、当院の研究分担者 (武居 哲洋)、ならびに中央施設の研究責任者と共同研究者
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	<p>当院: 集中治療部 永田 功</p> <p>提供元: 京都大学大学院医学研究科疫学予防医療学分野 藤井智子</p>
問い合わせ先	〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 集中治療部 氏名 永田 功 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101